

|         |                                                           |
|---------|-----------------------------------------------------------|
| モデル事業名  | 島ラジオを通じた地縁型コミュニティ形成とシマに対する誇り・愛着の醸成                        |
| 活動団体名   | 特定非営利活動法人 ディ！                                             |
| ホームページ  | <a href="http://www.npo-d.org/">http://www.npo-d.org/</a> |
| 所属／担当者名 | 事務局長 丸田 泰史                                                |
| 連絡先     | 0997-57-6366、                                             |
| 活動地域    | 奄美群島及び奄美出身者の居住する全国各地域                                     |

### ● 活動地域の概要

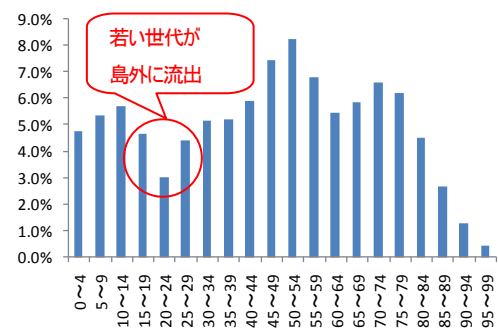
- ・奄美群島の人口12万6千人、うち奄美市5万人（平成17年国勢調査）
- ・島には大学がなく、かつ就職口も少ないことから若い世代が高校卒業後、島外に流出
- ・元気なお年寄りが多く、群島内の100歳以上人口は84人（郡部62人、市部12人）
- ・全国各地に島出身者で構成される奄美会があり、その規模は関西で約30万人、関東で約10万人
- ・その他、九州、中部、国外（カリフォルニア）などにも奄美出身者がコミュニティを形成

【活動拠点（奄美市）位置図】



※出典：@2009 Google

【奄美群島の年齢階層別人口比】



※出典：平成17年国勢調査

### ● 活動地域の課題

平成19年5月に「奄美大島と島人が持っている多様な価値を島人自身が再認識する」、「人と人との繋がり『結い』を大切にし、シマの価値を創造する」、「次世代へ向けてシマの素晴らしさを伝える」ことを目的に島ラジオ「ディ！ウェイブ」が開局した。

現在、奄美大島の奄美市と龍郷町でラジオの受信が可能だが、奄美大島以外の奄美群島から奄美市に移住した人、奄美大島から大阪や東京などの群島外に移住した人など、多くの奄美出身者の間では、行政の枠を超えた情報（イベント情報、災害・慶弔情報、ローカル新聞等の報道）の共有や人と人との繋がりを求める声も多く見られる。

そこで、奄美市および周辺部のみで放送されている島ラジオをインターネット等のICTを活用して広域に放送し、居住地が遠く離れていることで失われつつある地縁型のコミュニティを再生するとともに、シマ（島・集落の意）の在住者と出身者双方による情報共有によりシマに対する誇り・愛着の醸成を実現することが求められている。

### ● 活動の内容

#### ・平成20年度

活動1：奄美市内居住者・奄美群島居住者・シマ出身者が欲している情報内容の調査

→東京奄美会、福岡奄美会へのアンケート、島内住民によるネットラジオに関する意見交換会の実施

活動2：群島のネットワーク環境の調査及び提供可能な伝達手段に関する調査

→群島内の各市町村におけるインターネット接続環境（光回線、ADSL、ISDN）の調査

活動3：インターネット及びその他情報伝達手段を利用したラジオ放送の実証実験

→『英会話のOVA』：英会話と島ことばの勉強を一緒にできる番組

『ナキャワキャ島自慢』：島で頑張っているシママッチュの活動紹介

『読みむんまんてい』：奄美に古くから伝わる民話などを紹介する番組

#### ・平成21年度

活動1：ネットラジオ向けのコンテンツの拡充

→『英会話のOVA』2コンテンツ、『ナキャワキャ島自慢』21コンテンツ、『読みむんまんてい』6コンテンツ

→ホームページデザインのリニューアル

活動2：インターネットの双方向性を活かしたコミュニティ形成

→番組への意見投稿機能の設置

## ● 活動の成果

### ・平成20年度

平成20年度事業におけるアンケート調査結果等により、即時性がありつつ聞く側にとっては時間と場所を選ばずいつでも奄美の様子を知ることができるネットラジオの有効性やニーズが明らかになった。

また、本土在住の出身者の多くが「奄美の生活情報」を欲していることに対し、奄美在住者からは文化や産業などの「外向けの情報」を提供してはどうかといった提案がなされるなど、お互いをリアルタイムで結び合うコンテンツについては検討すべき点が残ったところである。さらに、インターネットの双方向性といった特性を活かす観点から、島内からの情報発信のみでなく、島外在住出身者の活動や想いを島内に伝えることによる、シマへの誇り・愛着をさらに醸成させる仕組み作りが必要であることが明らかになった。



10月30日に開催した意見交換会の様子。多様な年代の参加があったが、共通意見として「ありのままの奄美」を情報として伝えることがポイントであることを再認識した。

### ・平成21年度

#### 1) web radio での配信を契機に研究会の活動が盛んに！（シマゆむた伝える会）

奄美の島言葉や民話などの研究と普及を行っている「シマゆむた伝える会」は、web radio での情報配信をきっかけに定期的に番組制作のための会合を開くなど活動を活発化するようになった。

#### 2) 海外での奄美んちゅの活躍を紹介（南カリフォルニア奄美会）

南カリフォルニア奄美会への取材を行い、渡米して数十年経っている奄美んちゅの故郷への想いを web radio に載せることで、今も奄美に残る両親、兄弟、親戚に懐かしい声を届けることができた。

#### 3) 奄美市の ICT 事業との連携（奄美のシマグチ）

奄美市が行っている ICT 利活用モデル「奄美生活」というホームページにおいて、奄美のシマグチを紹介する場として、web radio との連携を行った。



取材を行った南カリフォルニア奄美会の島出身者



奄美のシマグチを研究しているシマゆむた伝える会

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

奄美の情報を島外に伝えること、また島外で活躍する奄美んちゅの情報を島に伝える、といった一方向の情報伝達は比較的用意に実現できるが、双方がお互いに交流しあう場をインターネット上に構築することの難しさを実感した。（技術的には掲示板などで可能であるが、インターネットの弊害である「掲示板荒らし」などの対策が必要となる。

### ・展望

平成22年1月4日に奄美市に隣接する宇検村において地域FMが新たに開局した。また、同じように地域の情報発信源としてFMラジオに取り組みたいという地域が群島内の各地域でみられる。

地元向けの日々のローカルな情報については、FM局が担い、それをインターネットが仲介役となつて、全国・全世界に発信していくという役割分担はますます重要になっていくと思われる。

私たちが行っているインターネットラジオについても、これらのローカル局との連携をより一層強化し、島の魅力を伝えていくことに努めていきたい。